

新育第 9 1 4 号の 2  
令和 3 年 1 1 月 2 5 日

各教育・保育等施設長 様

新潟市 こども未来部  
保 育 課 長  
(担当 保育指導グループ)

令和 3 年度（上半期）事故発生報告について

日ごろより、保育中の園児の健康及び安全について十分ご配慮いただき感謝申し上げます。

また、保育中の事故報告の提出についてもご協力いただきありがとうございます。

本年度上半期（4月～9月）の「災害報告書」「事故報告書」を集計し、結果を別紙のとおりまとめましたので、ご報告いたします。

事故における全体の傾向について、ご確認いただき、事故再発防止の参考にしていただきますようお願いいたします。

◆問い合わせ先◆

こども未来部保育課

保育指導グループ 長谷川 ・ 岡澤

TEL 025-226-1216

(内線 31216)

別紙

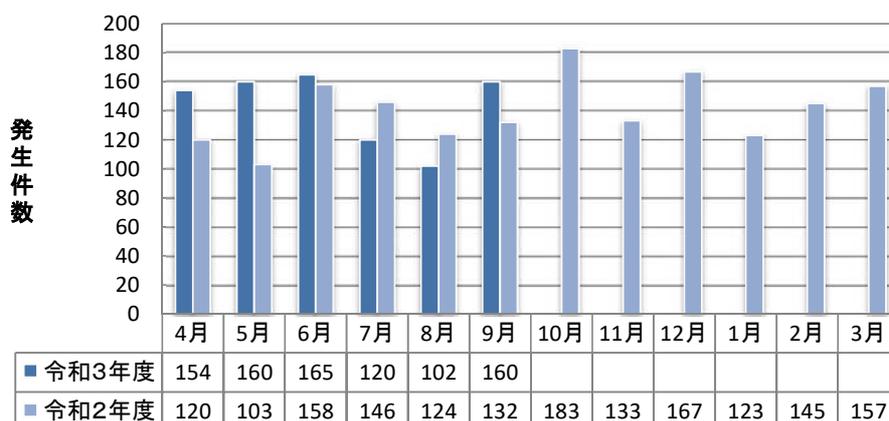
【事故報告件数(R3.4月～9月)】

\* 事故報告件数は、市立・私立保育園、認定こども園、地域型保育事業施設の合計

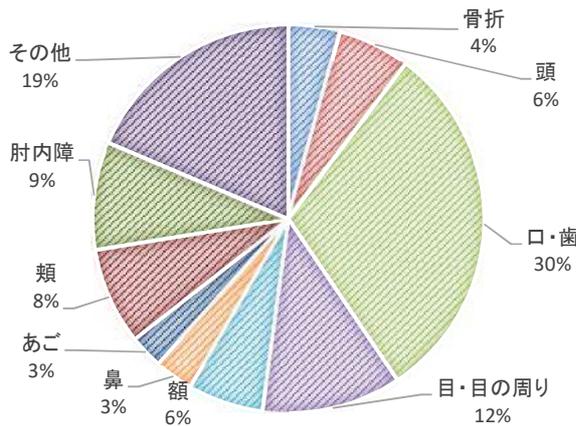
令和3年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計	前年度比						
報告件数(合計)*		154	160	165	120	104	164	867	84	前年度との比較					
部位等	骨折	2	9	6	6	5	9	37	-18	<4月～9月の事故発生件数>					
	頭	10	9	8	10	7	8	52	5	R3年度 867 件					
	口・歯	61	53	38	42	33	36	263	20	R2年度 783 件 84件増					
	目・目の周り	21	10	20	17	11	21	100	9	<4月～9月の					
	額	5	11	21	6	3	8	54	15	国報告対象となった重大事故>					
	鼻	3	9	7	3	2	4	28	28	R3年度 3 件					
	あご	4	3	5	5	3	4	24	5	R2年度 8 件 5件減					
	頬	12	16	15	3	5	19	70	26						
	肘内障	11	11	15	12	11	18	78	1						
その他	25	29	30	16	24	37	161	-7							
うち県・国への報告		0	0	1	0	0	2	3	※その他…表示部位や骨折・肘内障以外のケガ						
令和2年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計
報告件数(合計)*		120	103	158	146	124	132	783	183	133	167	123	145	157	1691
部位	骨折	10	7	10	8	14	6	55	13	6	4	6	8	8	100
	頭	14	4	10	3	8	8	47	9	9	9	6	3	9	92
	口・歯	30	40	42	51	31	49	243	62	40	57	54	58	57	571
	目・目の周り	13	13	14	15	24	12	91	15	18	33	19	30	21	227
	額	11	3	8	7	4	6	39	12	14	12	1	7	11	96
	あご	5	6	3	2	1	2	19	6	6	4	8	7	6	56
	頬	10	5	14	4	2	9	44	17	15	8	10	7	12	113
	肘内障	10	7	16	19	11	14	77	18	7	10	7	7	17	143
	その他	17	18	41	37	29	26	168	31	18	30	12	18	16	293
うち県・国への報告		1	1	1	2	2	1	8	2	1	1	2	1	0	15

4月～9月の前年度と比較すると、事故件数が84件増加しています。上の表で件数を比較すると、「頭」「口・歯」「目・目の周り」「額」「あご」「頬」のケガがプラスになっており、頭や顔面の増加が、事故件数全体の増加になっていると言えます。

【月毎の事故報告件数】



### 【種類別事故件数の割合】 (R3.4月～9月)

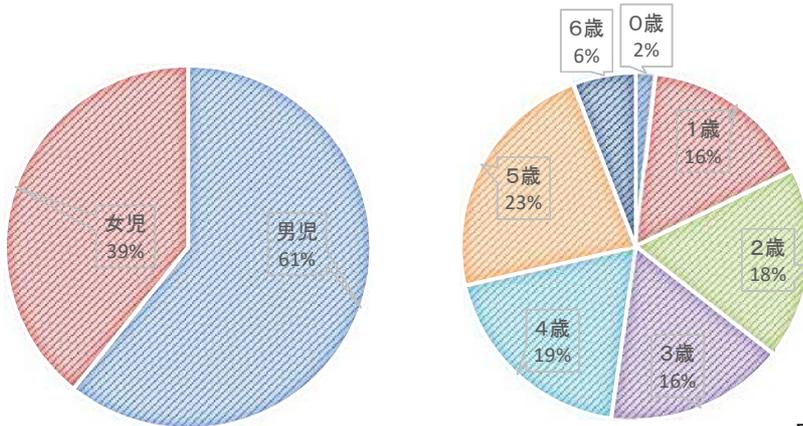


左の円グラフは、上半期の事故及び種類別の割合を示したものです。

頭・顔面のケガが多く全体の68.2%でした。中でも、特に口・歯に関するケガは多く30%で、頭・顔面のケガの半分近くを占めています。

ケガの種類としては、「打撲」「裂創」「擦過傷」などですが、皮膚のうすい「額」「あご」のケガは、裂創となり縫合処置をされるケースも少なくありません。縫合処置(医療用ホチキス含む)を伴う事故は、「重大事故等」の件数としてカウントしており、上半期は、34件ありました。

### 【事故件数/男女比及び年齢比】 (R3.4月～9月)



	男児	女児	計	年齢比
0歳	13	3	16	1.8%
1歳	84	54	138	15.9%
2歳	97	58	155	17.9%
3歳	80	64	144	16.6%
4歳	106	60	166	19.1%
5歳	118	80	198	22.8%
6歳	29	21	50	5.8%
計	527	340	867	

男女比は、6:4で、だいたい例年の傾向通りです。

年齢比では、3歳以上の幼児のケガが全体の64.3%で、7割近くを占めています。

### 【施設別事故報告件数】 (R3.4月～9月)

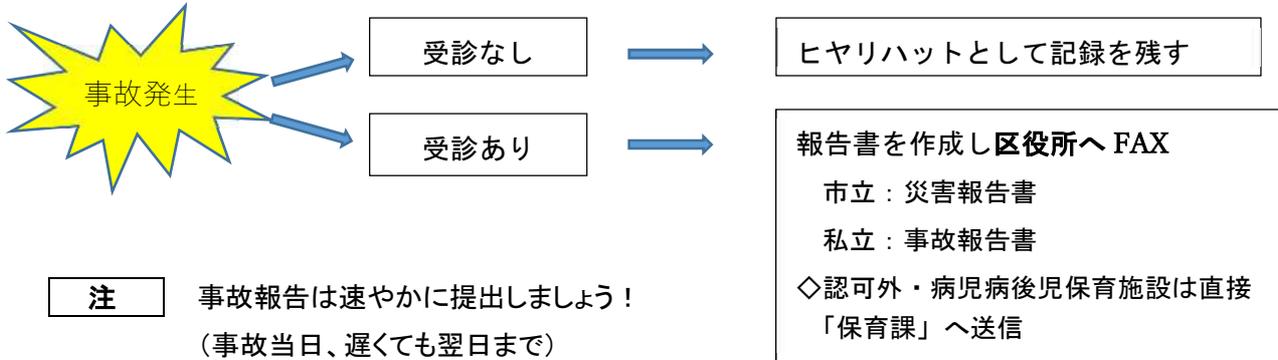
	施設数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	1施設当たりの平均
市立保育園・こども園	86	55	58	52	49	47	66	327	3.8 件
私立保育園	62	38	26	31	29	22	37	183	3.0 件
私立認定こども園	112	59	74	79	40	35	57	344	3.1 件
地域型保育施設	24	2	2	3	2	0	4	13	0.5 件
		154	160	165	120	104	164	867	

上の表は、施設別の事故報告件数です。上半期1施設における事故報告件数の平均は、市立保育園・こども園3.8件、私立保育園3.0件、私立こども園3.1件、地域型保育施設0.5件となっています。「受診を伴う事故が発生したら事故報告書を提出する」という基本的な対応が守られているかどうかで、この平均値は異なってきます。この半年間、事故がまったく発生していないのであれば大変良いことですが、事故が発生したのにそのまま報告されていないとしたら、類似事故の再発防止や職員への周知が欠けてしまうことが懸念されますし、より正確な事故状況を把握することができません。「**受診を伴うものは事故報告**」という基本的な対応を実行し、新潟市における事故の傾向について、より正確な情報提供ができますよう、ご協力の程よろしくお願いいたします。

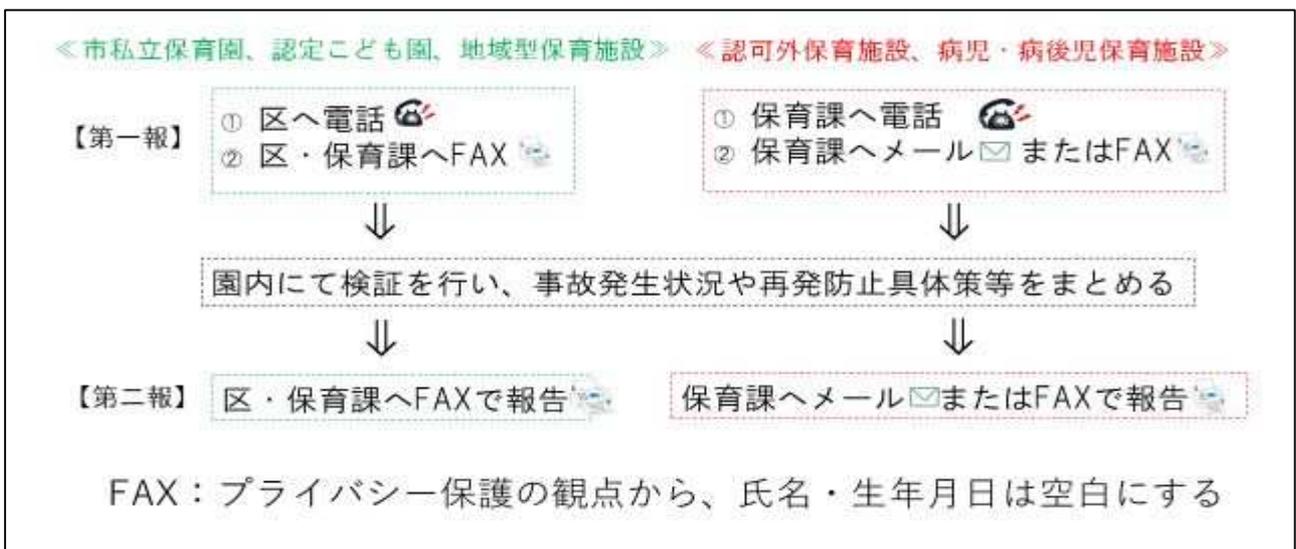
## 【事故報告書について】

ケガの大小や受診回数にかかわらず、保育中の事故によるケガで受診した場合は、すべて事故報告の対象です。

### もしも事故が発生したら・・・



### 事故が、重大事故等だったら・・・(骨折・縫合・複数の診療科受診など)



#### 注

- ◆事故報告は即時性が大切です。第1報で区へ電話し指導保育士が不在だった場合は、「事故報告です。代わりにどなたか聞いていただけますか」と伝え、担当者に報告をしてください。
- ◆事故報告書（災害報告書）とともに【様式3】において時系列で事故状況を詳しくお知らせください。

### 国報告対象の事故だったら・・・



国報告対象事故と判断された時には、折り返し保育課から該当園にお知らせしますので、お願いする手順にそって対応してください。

＜国報告対象の事故とは？＞

- ◆死亡事故
- ◆治療に要する期間が30日以上を負傷や疾病を伴う重篤な事故

## 事故報告書作成の留意点

「事故報告書」は、起こした事故に対する「反省文」ではありません。事故原因と向き合い、再発防止に必要な対策の提案につなげるという視点をもって作成することが必要です。

事故の概要を知らない第三者が見ても、事故がどのような経緯で発生したのか読み取れるように作成しましょう。5W1H及び主語と述語の対応関係を意識して文章を簡潔にまとめることが大切です。また、事故発生時の園児数、職員配置が記載されているとより分かりやすい報告書となります。

### <記載漏れの多い箇所>

- 医療機関名
- 負傷部位（上肢・下肢、左右、顔面の場合は「頬」「額」、歯の場合は右上A 等）
- 診断名
- 処置の内容（特に縫合の場合は、○針縫合と記載）

### <具体的防止策の好事例>

3歳児 女児 左肘内障

概要：棚に寄りかかっていた本児が振り向きざま、手を伸ばした瞬間、  
左手を急に痛がったため肘内障を疑い受診した

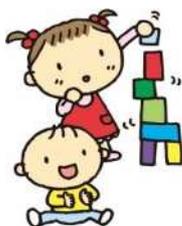
実際に提出された事故報告書に記載されていた具体的な事故防止策です。

#### 具体的な事故防止策

- ・危険な状況ではなくても、予想できない動きも考えられる。
  - ・腕を伸ばしただけでも肘内障になることが分かったため、他に肘内障になる可能性がある原因となるものをあげた。「机に手をつく」「寝返りをうつ」「運動遊び（腕に負担がかかる動き）」保育中このような活動時には特に注視する。
  - ・急なトラブルになった時は、胴体を支える。
- 以上のことを職員全員に周知し、どの職員が保育に入っても対応できる様にする。

**ソフト積木による事故に注意！**  
～安全な遊具だと思い込んでいませんか～

「ソフト積木」による事故は、度々発生しています。今年度4月～9月の間にも7件発生しました。その内訳は、下記の通りです。



#### <年齢別>

5歳	2件
4歳	2件
3歳	3件

#### <部位別>

上肢	2件
下肢	1件
頭	1件
口・歯	3件

#### <負傷別>

骨折	1件
肘内障	1件
打撲	1歳
挫創	3件
歯の動揺	1件

ソフト積木は、木よりも表面が柔らかいため、衝撃が少なく安全と思われませんが、重ねた上に登ったり、歩いたり、そこから飛び降りたりすることで、足を踏み外したり、バランスを崩し転倒するというケースがケガにつながっています。2年前には、国報告対象なる大きな事故が発生しています。年齢に応じて、遊び方が適切かどうかあらためて検討してみてください。

## 事故報告が示唆するもの～保育の専門家として見きわめたいこと～

以下は本市の重大事故等の事例です。

- 椅子に着席していたところ、後方から走ってきた他児がぶつかり肩を骨折
- 床に座っていたところ、他児に足を踏まれ指を骨折
- 足がもつれ転倒し、手が出ずに口元を裂創（縫合処置）

必ずしも活動的な場面で重大事故等が発生しているわけではないことが分かります。

ケガを防ぐため、運動発達を促そうと計画した“運動遊び”の場面でケガをする事例も報告されています。

- 遊戯室で“マラソン”をしていたところ、転倒し足を骨折（同様の状況で手指の骨折事例も有り）
- 体操教室中（外部講師）、跳び箱に手をつき損ね手指を骨折

これは、活動内容と子どもの運動能力の不一致（個々の運動能力を適切に捉え切れていないこと）が一因として考えられます。ある調査（\*1）では、「2007年の年長児は1985年の年少児と同等の動作しか獲得できていない」と報告されています。

（\*1）1985年と2007年との動作得点の比較 中村ら 2011

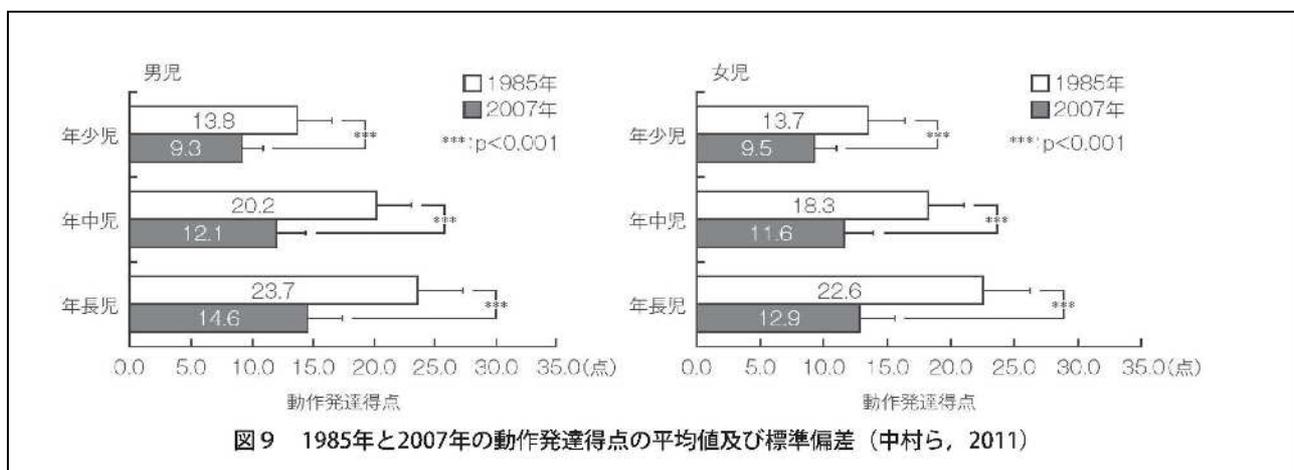
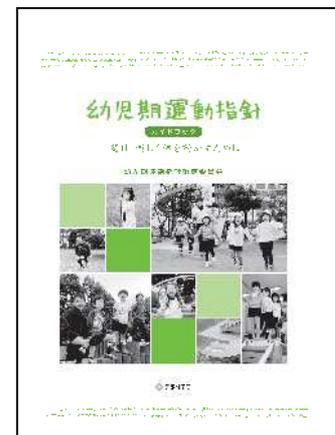
これまで当たり前に行われていた遊びにリスクが隠れている場合もあります。

- 狭い遊戯室で鬼ごっこをしていたところ、柱に肘をぶつつけ骨折

自園で「△歳児の活動内容」「遊戯室での定番の遊び」として計画している保育が、目の前の子どもの発達に適しているかどうかあらためて検討をした上で、文部科学省『幼児期運動指針』に示されているとおり、幼児期に多様な動きの獲得、また体を動かすことの楽しさを十分に経験できるよう、保育を計画していきましょう。

文部科学省『幼児期運動指針』

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/undousisin/1319772.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm)



出典：観察的評価法による幼児の基本的動作様式の発達（2011）中村ら